



みんなで
春をつくろう

第 13 期 ・ 第 14 期

かすが市民懇話会 活動報告書

～掘り起こそう、笑顔あふれる、住みよいまち～



2018.07.09

かすが市民懇話会 活動報告書 目次

1. かすが市民懇話会の概要	01
(1) 設置目的	01
(2) 基本的な活動内容	01
(3) 13期・14期かすが市民懇話会の概要	02
2. 提案内容と市の見解	05
3. 13期会員からのメッセージ	14
4. 各回の会議録	22
5. かすが市民懇話会 13期・14期会員名簿	43
6. かすが市民懇話会要綱	46

1. かすが市民懇話会の概要

(1) 設置目的

かすが市民懇話会要綱第 1 条により、設置目的は次のとおりです。

行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会を設置する。

(2) 基本的な活動内容

私たちは、かすが市民懇話会を「春日市に住む一人ひとりがそれぞれの住みよさを見つけることができ、誰もが住みよいと感じるまちを目指すために、私たち市民の声を市に直接届ける場にしたい」という思いから、生活に身近な話題で、年齢や性別や経験に関係がなく、誰でも意見が言いやすいテーマを設定し、かすが市民懇話会要綱第 2 条により次の活動を行いました。

ア 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言

イ 市政の運営に関する調査及び研究

ウ その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動

また、同要綱に、私たちの提案に対する市の対応は次のとおり規定されており、懇話会の活動に際しての庶務は、秘書広報課が行うこととされています。

市長は、前項の活動によって提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努めるものとする。（要綱第 2 条第 2 項）

(3) 13 期・14 期かすが市民懇話会の概要

年間テーマ

「掘り起こそう 笑顔あふれる 住みよいまち」

各回のテーマ、活動内容など

- 第1回** 日程：平成 29 年 7 月 31 日（月）午後 7 時～午後 9 時
場所：春日市役所 2 階 大会議室
内容：概要説明、役員の選任
講話：「産官学民によるまちづくり」
講師：福岡県男女共同参画センター「あすばる」
センター長 松田 美幸 氏



- 第2回** 日程：平成 29 年 9 月 26 日（火）午後 7 時～午後 9 時
場所：春日市役所 2 階 大会議室
内容：講話、グループ討論
講話：「地域で取り組む防災」
講師：地域生活部 安全安心課 消防防災担当 渡邊係長

第3回 日程：平成 29 年 11 月 20 日（月）午後 7 時～午後 9 時
場所：春日市役所 2 階 大会議室
内容：講話、グループ討論
講話：「コミュニティバスについて」
講師：都市整備部 都市計画課 計画担当 新田主事



第4回 日程：平成 30 年 2 月 5 日（月）午後 7 時 10 分～午後 9 時
場所：奴国の丘歴史資料館
内容：講話、グループ討論
講話：「史跡須玖岡本遺跡保存活用計画（案）」
講師：教育部 文化財課 調査保存担当 吉田主査



第5回 日程：平成30年3月28日（水）午後7時～午後9時

場所：春日市役所2階 大会議室

内容：講話、グループ討論

講話：「地域（自治会）活性化」

講師：須玖北地区自治会長 秋枝 恵美 氏



第6回 日程：平成30年5月21日（月）午後7時～午後9時

場所：春日市役所2階 大会議室

内容：講話、グループ討論

講話：「地方創生、人口減少対策」

講師：経営企画部 経営企画課 企画担当 本田主任



2. 提案内容と市の見解

私たちは、「掘り起こそう 笑顔あふれる 住みよいまち」を年間テーマとして、市と市民が協働したまちづくりを推進するために、共に行動する取り組みについて、年5回の話し合いを行いました。

この懇話会の話し合いの中で、市民の視点で捉えた課題を解決していくための方策を提案させていただいたところですが、これらの提案の中でも、特に「住みよいまちづくりに生かしていただきたい方策」を提案内容としてまとめました。この提案内容に対する市の見解をいただきましたので、掲載します。

各回のテーマと担当部署

第2回	地域で取り組む防災	安全安心課 消防防災担当
------------	------------------	---------------------

第3回	コミュニティバスについて	都市計画課 計画担当
------------	---------------------	-------------------

第4回	文化財を地域の宝に	文化財課 調査保存担当
------------	------------------	--------------------

第5回	地域（自治会）活性化	地域づくり課 協働推進担当
------------	-------------------	----------------------

第6回	地方創生、人口減少対策	経営企画課 企画担当
------------	--------------------	-------------------

1 地域で取り組む防災（H29.09.26 開催）

安全安心課消防防災担当

主な意見①
グループワーク「クロスロードゲーム」を行い、災害時に自分がどのような行動をとるのか、真剣に考えることができた。自分自身も含めて、春日市は災害に対して危機感が足りないと思うので、まずは、個人が防災について知識を深め、災害時の行動などを日頃から家族と話し合っておくことが大事だと感じた。また、実情に即した防災訓練に参加することも必要だと思う。
市の見解
ひとたび大規模な災害が発生したときに、自分の身は自分で守るという自助が、自分たちの地域は自分たちで守るといった共助とともに、被害の軽減にとって、最も重要であると考えております。 そのため、平常時から地域における災害の危険性を把握し、避難等の行動を確認するほか、家庭での予防・安全対策を講ずるとともに、地域の防災訓練等に積極的に参加するなど、災害に備えていただくことが大事なことだと思っております。 市としましても市報や出前講座、自主防災組織による訓練時など様々な機会を通じ、防災知識の向上や防災意識・危機意識の高揚に努めてまいりたいと考えております。 また、各自主防災組織の実施している防災訓練がより実情に即した訓練となるよう防災対策指導員を活用するなど市民と協力して進めてまいりたいと思います。

主な意見②
様々な意見がでるよう「クロスロードゲーム」の問題が構成されていたが、春日市の具体的事例を含めた問題もあるとより良かった。
市の見解
今回使用した問題は実際に阪神淡路大震災で起こった事象になります。

このゲームの目的は、実際の災害時に起こりうる問題を通じて自分自身で設問にＹＥＳ、ＮＯの判断を下すことを通して「災害を他人ごと」ではなく「我がこと」として考え、同時に意見を交わし様々な意見や価値観の違いに気がついていただき共有することです。

ご意見のとおり、春日市の具体的事例を含めた問題を含むことで、より具体的にイメージでき、より「我がこと」に感じることもあると思いますので、参考にさせていただきたいと思います。

２ コミュニティバスについて（H29.11.20 開催）

都市計画課計画担当

主な意見①	
	「やよい」ツアーを企画するなど、行政がもっとＰＲに力を入れる必要がある。
市の見解	
	ご意見を頂いているとおり、担当所管としてコミュニティバス「やよい」を知ってもらうＰＲ活動は重要なものと考えております。
	平成３０年度より、コミュニティバス「やよい」のＰＲ事業として「『やよい』無料体験乗車券」を春日市内自治会に交付し、地域の方々に「やよい」に乗車していただく機会を提供する予定です。

主な意見②	
	バスの運転手に広報の役目を担ってもらい、様々な宣伝をしてもらってはどうか。
市の見解	
	コミュニティバス「やよい」の運行を担っているバス運転手の主業務は、バスの安全運転と乗客への対応（バス停到着の案内等）であり、別途運転手が広報・宣伝活動を行うことは主業務への支障となります。また、車内での広報・宣伝については車内音声ガイダンス（有料）でも対応可能です。

主な意見③
バス停に屋根を設置したり、バス停をできるだけ道路の広いところに移設してはどうか。
市の見解
コミュニティバス「やよい」は、「公共・公益施設を巡るバス」、「市内を偏りなく巡るバス」、「投資効果の高いバス」をコンセプトとしており、既存の路線バスの維持に配慮しつつ、路線バスと競合しないルートを走行しています。こうしたコミュニティバスの性質上、コミュニティバスは幅員の広くない道路（地域の方々が日常で使う歩道の狭い生活道路等）をルートとしており、そのルート上にバス停が設置されています。 幅員の広くない道路でのバス停の屋根の設置は、交通安全上、道路管理上の問題や建築物としての技術的基準に合わないため、担当所管としては、コミュニティバスのバス停の屋根の設置は行っておりません。

主な意見④
年齢層を絞って、利用者を増やすための対策を検討してはどうか。
市の見解
コミュニティバス「やよい」は、「高齢者・障がい者にも優しいバス」をコンセプトとしており、「年齢層」ではなく「利用者層」を絞って設計されています。具体的には、高齢者、障がい者の方々に加え、日中の利用を想定して専業主婦の方々が主な利用者層となっています。そのため、これらの利用者層の方々にとって「やよい」の利便性を向上させることが、最も有効な利用者増加対策と考えております（最近では、増便による各路線の運行密度の向上、ルート変更を実施）。 なお、「やよい」は市内公共施設の巡回も目的としていることから、朝の通勤通学の時間帯に運行しておらず、通勤通学利用者はターゲットとしておりません。

3 文化財を地域の宝に（H30.02.05 開催）

文化財課調査保存担当

主な意見①
奴国だけの説明ではなく、伊都国と奴国、邪馬台国と奴国といった説明があると奴国の位置付けも理解しやすいのではないか。
市の見解
平成 29 年度策定しました須玖岡本遺跡保存活用計画の策定部会のなかでも、同様の意見がありました。今後、策定予定の同遺跡の整備基本計画の中でも、説明板等の設置の際は説明に入れるよう検討してまいります。

主な意見②
市民にとっては奴国の本質が不明なので、学術的に証明されていなくても、推測したものでも良いから人の興味を引くような説明をするべきでは。
市の見解
行政である以上、どうしても推測だけでは動けない部分もあり、この点、ご理解を頂ければと思います。「全国初」「日本最古」「最大級」等、真実を印象的なフレーズで発表するようには心がけており、これからも話題性を感じる表現を効果的に使った説明を目指したいと考えています。

主な意見③
市民だけでなく、近隣自治体へも春日市の文化財の P R を行えば、春日市の文化財の価値が高まるのでは。
市の見解
平成 30 年度は春日市奴国の丘歴史資料館開館 20 周年を迎え、この記念事業として平成 31 年 2 月 24 日(日)にふれあい文化センターサンホールで「須玖岡本遺跡」をテーマに講演会を開催する予定です。 市内はもちろん、近隣だけではなく県下自治体に参加を呼びかけ、広く春日市の埋蔵文化財の価値を知っていただく場にしたいと考えているところです。 是非、お誘い合わせのうえ、ご参加いただければと思います。

主な意見④
奴国の丘歴史資料館の場所が分かりにくい。県道 3 1 号線にある案内の看板も小さくて目立たず、わかりづらい。
市の見解
ご指摘のように、開館当初からある案内看板は老朽化が進み、活用しづらい状況があります。策定予定の須玖岡本遺跡整備基本計画のなかで整備方針を決定し、国県の補助金等を活用しながら整備を進めていきたいと考えているところです。

主な意見⑤
奴国の丘歴史資料館の建物を思い切って大きくしたらわかりやすくなるのではないかと考えています。また、奴国だけに限らず伊都国等、他の遺跡も一緒に紹介する大規模な博物館をつくってはどうか。
市の見解
ハード整備については、須玖岡本遺跡整備基本計画の中で検討する予定ですが、新たな施設に投資する状況はあまり生じないのではないかと考えています。むしろ、IT 技術などの進展に伴い、居ながらにして様々な体験ができるような施設整備へ向かっていくのではないかと考えています。

主な意見⑥
市内の小、中学校で史跡の勉強をするクラブ活動をつくってはどうか。
市の見解
ユニークな視点でのご提案を頂きありがとうございます。現在、同種の活動として、のぼり窯体験広場を活用した、白水小学校のやきものクラブがあります。当初は市職員が支援をしておりましたが、現在では地域の方が講師として支援をしてくださっています。
子どもたちにとって、楽しみながら考古学を学ぶ活動として、このようなクラブ活動のようなものがあればとても良いのではないかと考えています。すべての学校で実現することはなかなか難しいとは思いますが、例えば、現在資料

館で実施している「わくわく歴史体験」「ブラカすが歴史散歩」等を活用するなど、工夫の余地はあると思います。

4 地域（自治会）活性化について（H30.03.28 開催）

地域づくり課協働推進担当

主な意見①
まちづくり交付金の使い方が、ほとんど画一的であると感じる。自治会ごとに、もっと特色のある活動があっても良いのではないか。
市の見解
同じ事業でも、自治会ごとに地域の特性に応じて計画されており、内容は各地区自治会の自主性を尊重しています。

主な意見②
自治会活動にサポーター（支援者、アドバイザー）が必要ではないか。
市の見解
わがまちサポーター育成事業により、希望する地区自治会にアドバイザーの派遣を実施しています。（通年1地区）

主な意見③
自治会活動に対して、行政のチェック機能はきちんと働いているのだろうか。旧態依然となっている自治会には、市がアドバイスする必要があるのではないか。
市の見解
現在の自治会体制になってから、自治会は行政との重要かつ対等なパートナーであり、各地区自治会の地域活動等の自主性を尊重しています。 公民館の管理運営については、指定管理者である各地区自治会に委ねており、年一回、市に対して指定管理の活動実績報告書やまちづくり交付金実績報告書を提出していただいています。

5 地方創生、人口減少対策（H30.05.21 開催）

経営企画課企画担当

主な意見①
若い世代の転入が増加しているので、子どもから高齢者まで異なる世代の市民が一緒に過ごすことができる施設があるとよいと考える。
市の見解
現時点では、異なる世代の市民が一緒に過ごすことができる施設として、また協働のまちづくりの拠点として、市内35か所の地区公民館を活用いただいております。また、学校施設も、コミュニティ・スクールの活動を通して、多世代間の交流に活用いただいております。 今後は、若い世代（子育て世代）の転入が多い現状を踏まえ、子育て支援事業の充実など、ソフト面の充実を図り、多世代間の交流がより一層深まるよう検討してまいります。

主な意見②
若い世代の結婚を支援するため、家族参加型の婚活の場を提供したらよいのではないかと。
市の見解
若い世代の結婚の支援は重要な課題と認識しております。 結婚は個人の考え方によるところが大きく、デリケートな面がございますが、家族参加型の効果をはじめ、他団体の実施状況の情報収集に努め、行政の立場として、どのような支援ができるのか研究させていただきます。

主な意見③
外国人の住民も増えてきているため、異なる言語や文化の人にも配慮した住民サービスを提供していくべきである。
市の見解
春日市内にお住まいの外国人について、その言語や文化の違いにより、住民サービスに不均衡があってはならないことです。 窓口サービス、庁舎の表示、市からの情報発信など、これまでも言語や文化

が異なる外国人に対して配慮してまいりましたが、まだまだ充分とは言えませんので、今まで以上に充実するよう検討してまいります。

3. 13期会員からのメッセージ

稲永 正則

春日市による様々なお取り組みを知る機会を頂き、大変ありがたく思っております。

この2年間の振り返りとしてお伝えしたい事について考えてみました。

①かすが市民懇話会において、改善点として挙げるとすれば、会議資料の事前配布をお願いします。

理由) 当日、資料配布後説明に時間を要し、懇話する時間が足りない等を防ぐ事が可能となります。又、改善点などの意見交換が活発になると思われます。

②会合の年間スケジュールの策定をお願いします。

理由) すべて完璧に策定するのは大変難しい事とは思いますが、スケジュールがわかる事によって、皆さんがより参加しやすい環境となる様に思われます。

③会議の運営方法について、グループが決まったら、1年間同じメンバーで実施する。

理由) 毎回新しい会員さんと発表に向け懇話しますが、知らないメンバーとの会話で互いに極度の緊張状態となり、意見を出す環境としていい環境とは言えません。お互いに同じメンバーとして顔見知りとなり、より打ち解けた懇話が可能となります。

④各グループから発表された内容は、報告書には全て記載をお願いします。

理由) 発表内容は、各グループとして検討した内容ですので、漏れがあるととても残念に思います。

以上、これまでの2年間、かすが市民懇話会に参加させていただき、参加者とのより深い交流とは行かなかったことは、とても残念ではありますが、毎回、参加者の皆さんと必死になって短い時間を頭をフル回転して取り組みが出来た事に、今思えば感動を覚えます。資料作りや会場準備を頂いた職員の皆さん、

お忙しい中、都度ご出席頂き我々の意見に耳を傾けて頂きました井上市長に心より感謝申し上げます。

大田 優初

私は、大学で「まちづくり論」という授業を選択しており、先生からのすすめでかすが市民懇話会に参加させて頂きました。私は、元々、県外の出身で、春日市について知らないことも多く、不安でした。しかし、参加をするにあたり、春日市のことを知り、話し合うことで自分達が「知らないから」ということですましてはいけないということに気づきました。例えば、防犯や防災について話し合った時に、何ができるのか、今までの自分は、知らないふりをしていました。しかし、今回こういう話し合える機会を頂いたことにより学ぶことができ、しっかりと自分の中で必要なことが見えてきました。懇話会に参加することで春日市のことをよく知ることができ、良い所もたくさん知ることができました。自分が春日市で生活する以上は、このまちのことをたくさん知り、今私達に何ができるのか、それを学ぶことができる貴重な機会となりました。また、様々な年代の方と春日市を思い話し合うということは、多くの考え方や新しい視点を知ることができ、自分自身の考えの幅を広げる機会ともなりました。

私は、このかすが市民懇話会という経験を元に、知らないから関係ないからですませるのではなく、どんどん積極的にまちづくりに関わり、自分の暮らすまちを誇っていきたいと思っています。

小川 全也

昨今、私の周りは、右を見ても後期（高齢者）の方？左を見ても後期の方？高齢化の進んでいることを実感させられています。また、少子化も同様に実感しています。

このことは、日本でも例外なく深刻な時代を迎えています。

市政を司る市長をはじめ、市の職員の方々がますますご苦労される時代に入ったともいえます。

これからの問題解決のため、市長は、市民の意見や要望を把握するために「出前トーク」や「市民懇話会」などを立ち上げられたのではないかと思います。

その一つの「市民懇話会」に、13期生として（2年間）参加させていただきました。

2年を振り返ってみますと「懇話会のテーマ」ごとに、市政に反映できるような提言をするのが役目なのでしょうが、私たちの提言は、拙いもので満足いただけなかったのではないかと思います。

しかし、市長は、毎回のコメントで常に肯定的に受け止めていただき、ありがとうございました。

組織の優れた長は、市政に出て、人の意見を「目で聞く、耳で見る」者だと、禅僧のことばを思い出しています。

それが「出前トーク」であり、「市民懇話会」ではないかと思います。

これらの素晴らしい施策を継続していただきますと共に、職員の皆様のご活躍を祈念申し上げます。

小嶋 久英

私は生まれてからの半世紀この春日市で生活しているが、これまでは地域の活性化などといった具体的なテーマで地元を見つめ直すこともなかった。さすが市民懇話会に参加するようになり、他の方々の意見に耳を傾け、行政の方々からの説明を聞き、暮らしていても気付かなかった春日市が見えてきたように思う。

我が子が小・中学校の時によく耳にした『コミュニティ・スクール』という言葉。私自身地域の活動にも年数回ではあるが参加するようになり、保護者の立場からの目線と地域住民の立場からの目線で見て感じるがあった。私の

住む地域の隣組は、まさに少子高齢化という言葉が当てはまる。地区の運動会では選手を挙げることも難しくなり、出られる種目だけに参加するといった年が続いた。『コミュニティ・スクール』が根付いてからは、競技の道具の準備・後片付けからアナウンスなどの運営の手伝い、1番の花形競技のリレーも小中学校の参加があり、とても活気ある運動会になっている。

他にも、夏祭り・餅つき大会・敬老会など小さな子どもからお年寄りまで顔を揃える行事がずらっと続く。

核家族化が進み、3世代で一緒に暮らすことが少ない今、地域の中での3世代の触れ合いが、子どもにもお年寄りにもとても潤いを与えているのは確かである。

全国でもトップクラスの春日市の『コミュニティ・スクール』事業。今後も進化しながら地域活性化の『礎』となることを期待している。

この2年間の経験を活かし、自分には何が出来るのかを考えながら、更に住みよい春日市になるよう心掛けていきたいと思っている。

下川 智子

市民懇話会の会員として、毎回色々なテーマについて話し合い、多くの事を学ばせていただきました。

市長様をはじめ職員の皆様も、住みやすい町づくりの為、市民の声を第一に考え、多様な視点から取り組んでおられる姿勢に感銘を受けました。

少子高齢化の中、私が住んでいる地域も高齢者が多く、最近では100坪の土地を売却した後、3区画に分けた住宅が建設され若いファミリーで賑わっています。

これからは、独居老人や認知症の見守り、健康寿命への取り組みの他、若いファミリー層の転入を増やす為、子育てしやすい春日市の良さをPRすることが大切だと思います。

私も微力ではありますが、市民懇話会で学んだ事を周りの方にお伝えし、魅力ある町づくりのお役に立ちたいと思っております。2年間大変お世話になり、ありがとうございました。

大東 九二生

退職後「何かをしなければ」と思い春日原自治会、町づくり支援センター「ぶどうの庭」等で地域の方々と活動してきたが、それぞれ独自で特徴的な活動をしていることに感心しています。

行政からの強い縛りではなく、自主的に運営、活動することができるため、住民にとって集まりやすく、居心地が良いため地域の人達とのコミュニケーションがとれ、人と人との繋がりが広く深くなっていると思っています。

地域での活動を行う上で、行政や社会福祉協議会とは密接な関係があるため、2年前希望して市民懇話会メンバーに入りました。市民懇話会の運営進行に興味と関心をもちました。年間の方針としてテーマを決定し、各テーマごとに市関係部署から担当者が詳しく説明し、グループごとに分けてそれぞれ進行役、書記、発表者をあらかじめ決めて議論する。熱が入り、議論する中で行政内の解らないことはサポート役の市担当者に質問でき、その場で回答を頂くことができる。またグループごとに進行役がとりまとめ、発表者役が発表するという短時間で密度と内容が高い進行状況となっている。最後に市長が各グループの発表に対して春日市の現状、問題点、課題等をふまえてコメントしていただく、まさに「ガラス張りの行政と市民」と感銘しています。

市民懇話会メンバー一員として、春日市のまちづくりに少しでも貢献しようと議論したことが、貴重な勉強になったと思っており、今後も地域を通じて微力ながら尽力したいと肝に銘じております。

早野 雅佳

初めて、このような会に参加し、幅広い年齢層、普段お会いする機会が少ない方たちと深くお話しすることができ、ひとつのものごとに対する視点の違いを、良い意味で知ることができました。毎回のテーマの中には、仕事でも私生活でも関わる機会が少ない内容もあり、そのことについて、幅広い意見を聞き、自分の中で改めて考えるきっかけとなりました。逆に関わりの深い分野の話であれば、自分から意見を発したり、皆さんの意見を聞いたり、発見を新たにすることもありました。

会員みなさま、関係者みなさま、2年間ありがとうございました。

かすが市民懇話会の今後のご発展を祈念いたします。

藤石 秀昭

私は自ら応募したのではなく団体推薦の会員であったということもあり、正直なところ、積極的に市政へ意見を言うというよりは、毎回の懇話会に参加して行政側の説明を聞き、参加者と議論する中で、住民として地域で果たすべき役割を改めて考えさせられた2年間でした。

各回の懇話会で、市の担当者からテーマに沿った行政施策の説明を受けることはとても勉強になりましたし、班別討議の中で様々な意見が活発に出ることに刺激を受けました。

私自身が最も身近に感じた会議は、奴国の丘歴史資料館で開催された文化財活用をテーマにした懇話会です。自らが住む地区でありながら、奴国の丘歴史公園は私には毎日の犬の散歩コースに過ぎず、弥生時代の文化財の宝庫ということは知っていても、歴史資料館を見学したこともなければ、その文化的価値を人に説明する知識など全く持ち合わせていませんでした。

懇話会の班別討議では、「もっと人を引き付けるような工夫が必要」「わかり易い案内板が足りない」などの意見にただ同調するだけで、自分は地元住民であることに負い目を感じる情けなさでした。

一方、文化財の考古学的価値を熱心に語る行政職員の姿からは、ここにしかない文化財を何とか活用したいという熱意を感じましたし、市長のまとめの発言では、住宅密集地となってしまった遺跡の保存・活用の困難さも率直に出されて、大変印象深い会議でした。

私は2年間の懇話会活動の中で、市長及び秘書広報課の方々と毎回接するうちに、行政と自分との距離がぐっと近くなったような気がします。どうもありがとうございました。

松尾 志郎

光町に居住し、33年になる。公民館の前に居住し、子供が幼い頃は役員に名を連ねなくても行事ごとに参加してきました。13年前くらい、光町で性犯罪があり、相談をうけて警察、行政とかけまわり、防犯パトロールに参加してきました。6年前事業部員として2年務めました。

今回障がい者代表として市民懇話会に出席し、全ての内容が意義あるものでした。行政と自治会は密な関係が必要である。自治会に参加していない人をいかにして一人でも多く参加させられるか、昨年一月から民生委員に微力ながら携わっています。子供の登校時毎日の様に光町交差点に立ち見守っています。全国的に子供に対する誘拐犯罪が後を絶たない状況にあります。市民懇話会で学んだ知識を、自治会会長、役員、子供会役員、地域住民、家庭、子供、孫に説明し広げていきます。冬は体調管理の困難さ、及び孫守り等で欠席した事をお詫びいたします。市長、行政の皆様大変お世話になりました。ありがとうございました。

最後になりましたが、高齢者、障がい者、弱者、子供に「きくぼり」の四文字を大切に、日々大切に春日市一住民として頑張っていきます。これからもよろしくお願いいたします。

松尾 光弘

市民懇話会に第11期を含め通算4年間会員として参加させて頂きました。第13期会員としてのこの2年間では前期とは違う経歴の方との意見交換で、なるほどそんな見方・考え方があるなと感じたこともあり個人的に有益な点多々あったと思っています。

また、振り返ってみますと、この市民懇話会での会員の意見交換の時間が少なかったのではないかと思います。それは、先ず市職員からの情報提供の時間がありそれから意見交換の時間となるためだと思いますが、市からの情報提供なしに会員の意見交換を行い、次の回で前回の意見を参考に市から改めて情報提供を行い、再度会員による意見交換を試みるのも良いのではないのでしょうか。多種多様な経験をした会員から市政に関し参考となる意見を聴くためにも、もっと意見交換の時間を増やすことを検討してはいかがでしょうか。

市民懇話会のために資料作成に携わった市職員の方々に感謝しますが、その市職員の方々も懇話会にオブザーバーとして参加され、懇話会会員の意見を直接耳にすることも市行政を遂行する上での参考になると思いますが？（時間外勤務となるので・・・）

注文を付けた感想文となりましたが、市民懇話会からの意見・発想が基となり今後も春日市が住み良い町となることを願っております。

4. 各回の会議録

第1回（13期・14期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	平成 29 年 7 月 31 日 午後 7 時から午後 9 時まで
会 場	春日市役所 2 階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 23 名（欠席者 7 名）

第 13 期	大田優初、添田孝浩、十河春美、大東九二生、長田豊喜、小嶋久英 下川智子、藤石秀昭、松尾志郎、龍都矢子、松尾光弘、金子明生 小川全也
第 14 期	鬼塚文子、川野康廣、進乙弘、塚本あけみ、中野正常、西園英俊 原田美佐子、平野哲朗、松岡正一、山下懂子
講 師	松田 美幸（福岡県男女共同参画センター「あすばる」センター長）
事務局等	春日市長、経営企画部長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、広報広聴担当職員 4 名

議事

1 開会
2 かすが市民懇話会新規会員の依頼書交付
市長より、新規会員（11 名）に依頼書を交付する
3 市長あいさつ
市長より、かすが市民懇話会会員へ挨拶を行う
4 まちづくり講話：講師 松田 美幸氏（福岡県男女共同参画センター「あすばる」センター長）
テーマ「産官学民によるまちづくり」 ・地方創生がめざすもの ・春日市人口ビジョン、春日市まち・ひと・しごと創生総合戦略について ・政策決定のプロセスに多様な視点を入れる ・産官学民連携の取組による「まちの問題解決」（他自治体等事例紹介など）

5 かすが市民懇話会 概要説明

(事務局) 平成 28 年度活動報告書 1、2 ページに基づき説明。

懇話会は、行政が市民と自由な議論をする場として設置され、今年で 14 年目を迎えます。

懇話会の特徴としては、市民相互の懇談の中で生まれる市民の「生の声」を市政に生かすため、自由な意見交換を行うよう、会員による自主的な運営がなされている点です。

市としましても、事務局や担当部署だけでなく、市長が毎回参加し、生活に身近な意見や、自由な発想による議論を拝聴し、春日市のまちづくりの参考とさせていただきたいと考えています。

事務局の関わりといたしましては、会員の自主的な運営のサポートを行い、「日程調整、会場設定、案内通知」、「レジメ、会議録の作成」、「市の他の所管との連絡調整、資料等の準備」などを行います。

昨年度は、防犯や健康づくり、交通安全、地域活動、文化財など幅広い分野について懇話しました。今年度も、皆さんのアンケートなどを参考にテーマを決定いただき、進めたいと考えています。

6 かすが市民懇話会 役員互選

(議長：平成 28 年度かすが市民懇話会副会長 中野 正常)

かすが市民懇話会要綱第 4 条の規定に基づき、会長及び副会長の互選。

会 長：小嶋 久英 (第 13 期会員)

副会長：藤田 歩実 (第 13 期会員)、川野 康廣 (第 14 期会員)、原田 美佐子 (第 14 期会員)

7 活動方針協議

(議長：平成 29 年度かすが市民懇話会会長 小嶋 久英)

年間スローガン、各回のテーマ等については、アンケートを参考に、役員会へ一任することを決定。

8 市長所感

本日は、松田先生より他自治体の特色ある取組についてご紹介いただきました。

講話を拝聴しながら、春日市の特色ある取組は何かと自問しましたが、やはり「教育」、「福祉」、「子育て」だと考えます。そして、それらを結びつけているのは地域住民の皆さんのお力です。

私は、春日市のように地域活動が活発な自治体は他にないのではないかと考えています。

本市は 35 の自治会があり、各地区に 1 つずつ公民館を設置しています。平成 21 年度に自治会改革として「地区世話人制度」の廃止を実施するなど、住民による主体的なまちづくり活動の促進を図ったことにより、徐々にそれぞれの地域が特色ある様々な取組を行うようになってまいりました。

また、このこととコミュニティ・スクールの取組が関わることによって、子どもたちを地域でも育てていく風土ができました。今では、子どもが様々な地域活動に参画するようになってきました。

松田先生もおっしゃるように、今後、春日市も避けては通れない課題として、「少子高齢化」があります。このことにより、地域社会の中で支え合う仕組みづくりも求められるようになってきました。今後のまちづくりは、市だけの力では成り立たなくなるため、より一層、地域や市民が力を合わせていくことが必要になると考えています。ぜひ、皆さんにも懇話会の活動を通し、協働に関するご提案もいただきたいと思います。

これからもぜひ、皆さまのお力でこの懇話会をよりよいものにしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

第2回（13期・14期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	平成 29 年 9 月 26 日（火） 午後 7 時から午後 9 時まで
会 場	春日市役所 2 階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 21 名（欠席者 9 名）

第 13 期	伊藤悦美、大田優初、十河春美、大東九二生、長田豊喜、藤田歩実 小嶋久英、下川智子、藤石秀昭、稲永正則、松尾光弘、小川全也
第 14 期	鬼塚文子、川野康廣、進乙弘、塚本あけみ、中野正常、西園英俊 原田美佐子、平野哲朗、山下懂子
講 師	渡邊係長（地域生活部安全安心課）
事務局等	春日市長、経営企画部長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、広報広聴担当職員 3 名 安全安心課消防防災担当 1 名

議事

1 開会
2 会長あいさつ及び平成 29 年度活動方針報告 (小嶋会長) 会員の皆様より集めたアンケートの集計結果等を考慮し、役員 4 名で以下のとおり方針を決定した。 年間スローガン：「掘り起こそう 笑顔あふれる 住みよいまち」 各回のテーマ：「地域で取り組む防災」、「コミュニティバスについて」、「地域(自治会)活性化」、 「文化財を地域の宝に」、「地方創生、人口減少対策」
3 市長あいさつ
市長より、かすが市民懇話会会員へ挨拶を行う。

4 講話「地域で取り組む防災」：講師 渡邊 係長（地域生活部 安全安心課）

以下の内容について説明を行った。

- ・春日市の地理的特性について
- ・地域の安全安心が求められる背景(自助・共助・公助)
- ・自主防災組織について
- ・自主防災組織活動事例
- ・自主防災組織の課題と展開
- ・消防団について
- ・消防団の活動内容
- ・消防団の課題と展開

5 グループワーク「クロスロードゲーム」

災害対応を具体的にイメージすることができるカードゲーム「クロスロードゲーム」を4班に分かれて行った。

6 グループワークの感想の発表

※発表者

1班 小嶋久英、鬼塚文子、小川全也、藤石秀昭、原田美佐子、中野正常

- ・犬を避難所に連れていくかどうかという設問では、意見が大きく分かれた。家族同然なら、迷わず連れていくという意見と、避難所で迷惑をかけてしまうかもしれないから連れていかないという意見が出たことで、避難所生活は団体行動なので大変であるということが改めて認識できた。
- ・ゲームとは言え、全員が真剣に様々な場面を想定し、具体的に自分はどう行動するかということを議論することができた。

2班 進乙弘、長田豊喜、稲永正則、下川智子、塚本あけみ

- ・犬を避難所に連れていくかどうかという設問では、避難所にいる人に迷惑がかかるから、自宅で面倒をみるか、自家用車の中で面倒をみるという意見がでた。また、避難所に連れていくという意見の人も、自分の身を案じるだけでなく、家族である飼い犬のことを大切に思う気持ちを述べていた。
- ・3000人が避難している避難所に2000食の食糧が届いたという設問では、優先順位をつけて、2000食をすばやく配ってほしいという意見が多かった。

・川沿いに住む家族が、夜中に避難を始めるべきかどうかという設問では、いち早く避難した方が良いという意見と、夜中に避難するのは危険だから明るくなってから避難するとどちらも説得力のある意見が出たが、会社と家族のどちらを優先するかという設問では全員が家族を優先するという意見であった。

3班 川野康廣、大東九二生、山下懂子、十河春美、大田優初

- ・生活環境がそれぞれ違うため、たった5人でも大きく意見が分かれた。このことから、災害が起きた際は、人は千差万別の行動をとるだろうと感じた。
- ・いざ、集団行動をとろうと思っても難しいため、日頃から防災訓練などに参加し、集団行動をとる練習をしておかなければならない。
- ・自分自身も数十年春日市に住んでいるが、春日市は災害に対しての危機感が足りない。今回のゲームで意見が分かれたのも、このような背景が影響がしているのではないかと思う。
- ・防災訓練や地域のことを勉強して、まずは個人が防災についての理解を深め、いざというときに集団行動がとれるようにしていかななくてはならない。

4班 西園英俊、松尾光弘、平野哲朗、伊藤悦美、藤田歩実

- ・災害の際は、色々な情報を集め、行動していくことが大事だと思った。
- ・色々な意見がでるようにあえてファジーに問題を出していたのだなと感じた。ゲームの設問に春日市に関するものがあるとより良かった。
- ・春日市にも警固断層が通っているので、地震発生時の行動などについて日頃から家族と話し合いをしたり、実情に即した訓練やシミュレーションをしておくことが大事だと感じた。

7 市長所感

出前トークなどにおいても、防災に関する意見や質問をいただく機会がありますが、「行政側は何をしてくれるのか」という内容が多いように感じております。しかし、専門家の話では、大規模災害時に消防や自衛隊、行政からの救助活動である「公助」で助かる人はほんの1割であると言われております。残りの2割は近隣住民が互いに助け合う「共助」、そして7割の人は自ら(家族を含む)の命は自らが守る「自助」によって命が救われています。このようなことが言われている中、都市部の住民は7割を「公助」に期待し、「共助」に2割、「自助」に1割という実情とは真逆の期待をしているそ

うです。

市としては、防災に関する情報を市報でお知らせしたり、防災ガイドブックをお配りし、啓発を行っておりますが、すべての市民の皆さんにはご覧いただけていない状況です。

本日のクロスロードゲームを通して、一人一人が災害に直面した時にどのような行動をとるのか、ということを考える良いきっかけになったのではないかと思います。これからも、市と一緒に防災について考えていただけたらと思っております。

8 閉会

第3回（13期・14期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	平成 29 年 11 月 20 日（月） 午後 7 時から午後 9 時まで
会 場	春日市役所 2 階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 23 名（欠席者 7 名）

第 13 期	石崎菜月、大田優初、添田孝浩、十河春美、大東九二生、長田豊喜 小嶋久英、下川智子、藤石秀昭、松尾志郎、早野雅佳、龍都矢子 松尾光弘、金子明生、小川全也
第 14 期	鬼塚文子、川野康廣、進乙弘、塚本あけみ、中野正常、原田美佐子 平野哲朗、山下瞳子
講 師	新田主事（都市整備部都市計画課）
事務局等	春日市長、経営企画部長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、広報広聴担当職員 3 名 都市計画課計画担当職員 2 名

議事

1 開会	
2 市長あいさつ	市長より、かすが市民懇話会会員へ挨拶を行う。
3 会長あいさつ	小嶋会長より、挨拶を行う。
4 講話「コミュニティバスについて」：講師 新田 主事（都市整備部 都市計画課）	以下の内容について説明を行った。 ・ 民間の乗合路線バスを取り巻く状況 ・ 春日市コミュニティバス「やよい」について （運行方針、特徴、運行経費・利用者数・収入、利便性の向上）

・これからの「やよい」

5 グループ懇話「コミュニティバスについて」

4班に分かれてグループ懇話を行った。

6 懇話内容の発表

※発表者

1班 進乙弘、長田豊喜、小嶋久英、原田美佐子、十河春美

・コミュニティバス「やよい」の利用者を増やすためにすべきこと、課題となっていることを9項目発表

- ①夏休み期間中に、小・中学生などに利用してもらう
- ②乗継カードとICカードの違いを分かりやすく周知する
- ③「やよい」ツアーを企画し、春日市のことをもっと知ってもらうきっかけにする
- ④高齢者運転免許証自主返納支援事業の影響で、利用者数増加は期待できる
- ⑤バスを1本逃すと、次のバスを1時間も待たなくてはならない
- ⑥バスの運転手に広報の役目を担ってもらい、様々な宣伝が行えるようにする
- ⑦ノーマイカーデーの企画
- ⑧現在の便数を維持するために、自分たちが積極的にバスを利用する
- ⑨行政も「やよい」のPRにもっと力を入れてもらいたい

2班 鬼塚文子、小川全也、松尾光弘、大東九二生、添田孝浩、龍都矢子

・班員はコミュニティバスに乗ったことがあったので、利用者としての意見をまとめた

- ①病院や市役所へ行く際に利用している人が多い
- ②路線別、時間帯別の利用状況のデータをとれば、利便性向上につながる気づきがあるのではないだろうか
- ③遺跡など観光資源となる場所とタイアップして、「やよい」をPRしてはどうか
- ④バス停をできるだけ道路の広いところに移設した方がよい
- ⑤かすが市民懇話会の視察でバスに乗り、普段利用しないルートを経験してはどうか

3班 山下懂子、大田優初、中野正常、松尾志郎、金子明生、下川智子

- ・班員の中で、4人がコミュニティバスを利用したことがないということから、利用している人の意見と利用していない人に分けて懇話を行った

(利用している人の意見)

- ①乗継が無料なのは良い
- ②バスのデザインが可愛い
- ③バス停に屋根があると良い
- ④便数がもっと増えると良い
- ⑤バスが遅れることもあるため、改善されると良い

(利用していない人の意見)

- ①バス停の位置を把握できていない
 - ②通勤通学時間帯にバスが走っていないため、利用する機会がない
- ・「やよい」のPRをもっとすべきだということと、乗り降り自由の循環バスにすれば、利用が増えるのではないかという意見が利用している人からも利用していない人からも出た

4班 平野哲朗、塚本あけみ、川野康廣、藤石秀昭、早野雅佳、石崎菜月

- ・市内一円を100円で周れるのは凄いこと
- ・市内を網羅していることは大変良いことだが、乗継に時間がかかり、時間の制約がある
- ・場所によっては、歩いた方が早いと感じるところもある
- ・コミュニティバスの目的を考えて対策を考えることが必要
- ・高齢者の運転免許証自主返納が進み、将来的にはコミュニティバスの必要性は高まる
- ・コミュニティバス事業を維持していくための対策を検討すべき
- ・利用者数を増やしたい年齢層を絞って対策を検討すべき

7 市長所感

「やよい」は、利用料金100円につき運行経費が500円以上かかりますが、市が行う公共事業で採算の取れる事業はありません。市の事業は、採算が取れるかどうかということではなく、市民の方に出来るだけ安価な料金で公共施設などを利用していただくかということがベースにあります。

私が、現在のようなコミュニティバスの必要性を感じたのは、泉地区での出前トークでいただいた意見がきっかけです。当時、泉地区の方は、市役所にお越しになる際、バスに乗って大橋駅へ行き、西鉄電車に乗って春日原駅へ行き、そこから歩いて市役所へいらっしゃっていました。これは大きな問題であると認識し、コミュニティバスを大きく見直すことにしました。

他市町村のコミュニティバスは通勤通学用であるのに対し、「やよい」のコンセプトは、市役所などの市内の公共施設に市内のどこからでも行けるというものです。利便性を追求していくときりはありませんが、コミュニティバス「やよい」が今後どうあるべきか、いただいた意見を参考に研究してまいります。

8 閉会

第4回（13期・14期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	平成 30 年 2 月 5 日（月） 午後 7 時 10 分から午後 9 時まで
会 場	奴国の丘歴史資料館 研修室

出席者 かすが市民懇話会会員 18 名（欠席者 12 名）

第 13 期	十河春美、大東九二生、小嶋久英、藤石秀昭、稲永正則、早野雅佳 龍都矢子、松尾光弘、金子明生、小川全也
第 14 期	鬼塚文子、川野康廣、進乙弘、塚本あけみ、原田美佐子、平野哲朗 松岡正一、山下懂子
講 師	吉田主査（教育部文化財課）
事務局等	春日市長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、広報広聴担当職員 2 名 文化財課文化財担当 1 名

議事

1 開会
2 市長あいさつ
市長より、かすが市民懇話会会員へ挨拶を行う。
3 会長あいさつ
小嶋会長より、挨拶を行う。
4 講話「史跡須玖岡本遺跡保存活用計画(案)」：講師 吉田 主査（教育部 文化財課）
以下の内容について説明を行った。 ・保存活用計画の位置づけと意義 ・史跡須玖岡本遺跡の保存の経緯 ・須玖岡本遺跡の現状、課題 ・保存管理 ・事業の推進 ・保存活用計画策定の体制 ・須玖岡本遺跡の価値 ・基本理念 ・活用整備

5 グループ懇話「文化財を地域の宝に」

3班に分かれてグループ懇話を行った。

6 グループワークの感想の発表

※発表者

1班 小嶋久英、松尾光弘、鬼塚文子、進乙弘、早野雅佳、松岡正一

- ・文化財のPRにもっと工夫をしてもらいたい
- ・奴国だけの説明ではなく、伊都国と奴国、邪馬台国と奴国といったような比較をした説明があると奴国の位置づけも理解しやすいのではないか。
- ・市民にとっては奴国の本質が不明なので、学術的に証明されていなくても、推測したものでも良いから人の興味を引くような説明をするべきである。
- ・小、中学校の歴史教育で史跡見学を行うなど、教育にもっと工夫をするべきである。

2班 小川全也、塚本あけみ、十河春美、平野哲朗、龍都矢子、金子明生

- ・市民の奴国に対する認知度が低い。
- ・奴国の学術的価値と、遺跡の保存に対する市民の気持ちに乖離がある。
- ・市民の奴国への理解が深まれば、遺跡の保存に対する気持ちも変わり、市民も協力的になるのではないか。
- ・小学校で春日市にある文化財の価値を教えたり、地域住民に対してはコミュニティバスに乗って奴国の丘歴史資料館に来てもらい、奴国のことなどについて理解を深めてもらう必要がある。
- ・市民だけでなく、近隣自治体へも春日市の文化財のPRを行えば、春日市の文化財の価値が高まるのではないか。

3班 川野康廣、東九二生、山下懂子、藤石秀昭、稲永正則、原田美佐子

- ・春日市に素晴らしい文化財という宝があると改めて知り、感動した。
- ・奴国の丘歴史資料館の場所が分かりにくい。県道31号線にある案内の看板も小さくて目立たず、分かりづらい。
- ・奴国の丘歴史資料館の建物を思い切ってもっと大きくしたら分かりやすくなるのではないか。また、奴国だけに限らず伊都国等、他の遺跡も一緒に紹介する大規模な博物館をつくってはどうか。
- ・史跡指定地になっているところが少なく、しかも点在しているので全体像が把握しづらい。

・市内の小、中学校で史跡の勉強をするクラブ活動をつくってはどうか。

7 市長所感

本日も、熱心に率直な意見交換を行っていただきありがとうございました。各班の発表の中で、文化財のPRが下手であるというご意見がありましたが、誠にその通りだと思います。その原因の一つに、春日市にある遺跡は目に見えないということが言えると思います。大規模保存が叶った佐賀県にある吉野ヶ里遺跡等と違って、須玖岡本遺跡は住宅地の中にあって、しかも地中にあるということで、今までなかなか手が付けられませんでした。しかし、このままではいけないということで、須玖岡本遺跡を可視化していこうと動き出しました。専門家から見れば、国指定どころか国宝級の特別史跡の価値が十分あるそうです。文化庁も須玖岡本遺跡の価値については十分理解しているのですが、住宅地の中に希少な遺物が眠っているため、具体的な指示がこない状況が続いていました。

現在、岡本地区は世代が変わる時期を迎えていて、住宅の建て直しを検討する方が増えております。しかし、住宅建て直しの工事の際に希少な遺物が発見された場合、様々な制約が出てきてしまい、トラブルを生む可能性があります。地元の方に文化財の保護について理解していただくため、岡本地区で説明会を何度も開いているのですが、そこで「家の建て直しをしたいが問題ないか」と問われても、地中に何が眠っているのか分からないため明確な回答をすることができず、地元の方に不安を与えていました。私としては、できるだけ、住み慣れた地域で安心して生活していただくことが重要であると考えております。

また、発表にもありましたが、須玖岡本遺跡に限らず、他の市町村とも連携して、伊都国などと須玖岡本遺跡をつなぐ回廊の研究を進めていくということも有効であると考えます。

これからは、専門家と市の文化財技師が協力して、遺跡の保存活用計画を策定し、国へ働きかけていこうとしております。今年度中に保存活用計画を完成させ、来年度より具体的に動いていこうと思っています。本日は、皆さんから大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

8 閉会

第5回（13期・14期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	平成 30 年 3 月 28 日（水） 午後 7 時から午後 9 時まで
会 場	春日市役所 2 階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 15 名（欠席者 15 名）

第 13 期	伊藤悦美、十河春美、大東九二生、小嶋久英、松尾志郎、早野雅佳 松尾光弘、小川全也
第 14 期	鬼塚文子、川野康廣、進乙弘、中野正常、西園英俊、原田美佐子 平野哲朗
講 師	秋枝 恵美（須玖北地区自治会長／春日市自治会連合会会長）
事務局等	春日市長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、広報広聴担当職員 3 名、地域づくり課長

議事

1 開会	
2 市長あいさつ	市長より、かすが市民懇話会会員へ挨拶を行う。
3 会長あいさつ	小嶋会長より、挨拶を行う。
4 講話「地域（自治会）活性化」：講師 秋枝 恵美（須玖北地区自治会長）	以下の内容について説明を行った。 ・自治会組織の再編に伴う過程（平成 21～29 年度） ・自治会活動の意義（願い）と考察 ・活動の具現化に至る構想、具体的な活動の展開手法及び考察 ・自治会活動の担い手（当事者）づくり、確保 ・コミュニティ・スクールと地域の関わり ・自治会と自治会連合会の意義、目標 ・須玖北地区の活動事例紹介

5 グループ懇話「地域活性化」

3班に分かれてグループ懇話を行った。

6 グループワークの感想の発表

※発表者

1班 川野康廣、大東九二生、西園英俊、原田美佐子、早野雅佳

- ・各自治会の活動費（まちづくり交付金）の使い方はほとんど画一的だと感じる。自治会ごとにもっと特色があり、色々な活動（組織）があっても良いのではないか。
- ・自治会には用がなく、馴染みもないので入りづらい。生活に密着しているという印象を持ちづらい。
- ・自治会の活動を知らない間は、どうしても敷居が高いと感じてしまう。
- ・「フレックスな関わり方」でいい、と説明を受けると、活動に関わりやすい気持ちになった。
- ・自治会活動にサポーター（支援者、アドバイザー）が必要ではないか。

2班 小川全也、小嶋久英、十河春美、中野正常、松尾光弘

- ・自治会の総会が代議員制であると、代議員以外の住民からは公民館が縁遠いものになってしまう。
- ・自治会活動の内容が地区の住民に充分周知されていない。
- ・自治会役員が上から目線で言動するようになると、敷居を高くしてしまう。
- ・地域活動に参加しやすい方法を考えることが重要。
- ・自治会役員を育てることも考えなくては、後継者のなり手がいない状況となる。

3班 伊藤悦美、鬼塚文子、進乙弘、松尾志郎

- ・自治会活動に対して、行政のチェック機能が果たされているのか疑問。旧態依然となっている自治会には市がアドバイスする必要があるのではないか。
- ・役員が長年固定されており、交代がない。
- ・魅力ある自治会にするにはどうしたらよいかが最優先。
- ・自治会（公民館）の敷居を低くして、どなたも立ち寄りやすくするのが大切だが、まずは隣近所から仲良くすることも大事。

7 市長所感

現在の自治会制度となる前、春日市は当時多くの反対の中で、各地区に特別地方公務員として委嘱していた「地区世話人」の職を廃止しました。理由は大きく3つです。

一つは、まちづくりのさらなる発展のためには、自治会と行政が対等である必要がある、と考えたことです。地域の取りまとめを行う地区世話人が市から報酬を得ている状態では、「対等」関係とは言えないからです。

二つ目の理由は、当時の地域の取りまとめ役としてもう一人、「公民館長」という職があり、この者と地区世話人による“取りまとめ役の2重構造”を解消するためです。しかも、比較的実働を多く担う公民館長の報酬は、地区世話人と比べて10分の1から20分の1ほどしかありませんでした。この格差を是正する必要もありました。

最後の理由は、国の少子高齢化対策の動きに合わせるためです。高齢者が増え、医療・介護福祉のニーズが加速度的に高まる中、地域で支え合うように国の方針が変化しています。大手の病院は病床数（入院可能数）を減らしており、逆に、社会福祉協議会は自治会とともに地域福祉の最前線でさらに活動範囲を広げています。春日市も2020年以降は人口が減っていく見通しがあり、働く世代の減少に伴い税収が落ち込むことが懸念されます。その結果、市が提供する行政サービスの範囲を狭める必要が出てくるでしょう。職員数も減らしていく必要があるかもしれません。

今後、行政だけではまちづくりはできなくなってくると思います。そのような中、春日市は地域の皆さんが試行錯誤しながら活動を積み重ねた結果、日本一のコミュニティ・スクールを運営できていると自負しています。さらに、各公民館がカフェを運営するなど、活動は今も発展しています。

市は地域活動の内容を強制もしませんし、統制もしません。まちづくりの考え方、自治会運営の考え方は人それぞれ異なるからです。教科書がないものだからこそ、必要以上に行政が介入することは避けたいと思っています。

8 閉会

第6回（13期・14期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	平成 30 年 5 月 21 日（月） 午後 7 時から午後 9 時まで
会 場	春日市役所 2 階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 15 名（欠席者 15 名）

第 13 期	小嶋久英、大東九二生、長田豊喜、下川智子、藤石秀昭、松尾志郎 早野雅佳、松尾光弘、小川全也
第 14 期	川野康廣、原田美佐子、鬼塚文子、進乙弘、塚本あけみ、平野哲朗
講 師	本田洋平（経営企画部 経営企画課 企画担当 主任）
事務局等	春日市長、秘書広報課長、広報広聴担当職員 4 名、経営企画課長、企画担当係長

議事

1 開会	
2 市長あいさつ	市長より、挨拶を行う。
3 会長あいさつ	会長より、挨拶を行う。
4 講話「地方創生、人口減少対策」：講師 本田主任（経営企画課）	以下の内容について説明を行った。 ・地方創生とは ・春日市の人口ビジョン ・春日市まち・ひと・しごと・創生総合戦略 ・若い世代の結婚から子育てまでの希望がかなうまちづくり ・九州で最も住みやすい魅力あるまちづくり ・超高齢・人口減少社会に対応した持続可能なまちづくり

5 グループ懇話

人口減少社会における「まちづくり」に必要なことをグループごとに話し合った。

6 懇話内容の発表

※発表者

1班 松尾光弘、下川智子、川野康廣、大東九二生、長田豊喜、鬼塚文子

- ・社会保障費をいかに抑えるかが大事だと考える。そのためには、高齢者に自治会活動への参加を促し、健康な毎日を送ってもらいたい。ラジオ体操は仲間づくりができ、心の健康にもよい。
- ・若い人を確保するためには何をすべきかを考えることが大切。出生率を高くして人口を増やす。
- ・40歳以上の労働者を対象に、健康について学ぶ研修を企業内で実施し、10年後の健康についてアドバイスをもらう。
- ・春日市のメリットは、福岡市の発展と共に人口が増加することである。一方で、人口が増加しても住みやすさを維持していくことが大事である。
- ・人を呼び込む施策はテレビで見るが、春日市には人口を増やす予算はどれくらいあるのだろうか。
- ・サンハイツの近くにどろんこ保育園ができて、若い世代の転入が増えている。今後は子供も高齢者も一緒に過ごせる施設があると良いのではないかと。1階を保育園、2階を老人ホーム等にして、福岡市のベッドタウンとして機能することが大事。
- ・賃貸マンションを多くして、人の入れ替わりや人口を増やすなど幅広く対応できるまちづくりをする。

2班 小嶋久英、松尾志郎、早野雅佳、原田美佐子、平野哲朗

- ・市役所へ行けば生活に関するあらゆる情報の入手や手続きができるワンストップサービスを実現する。
- ・人口維持や増加のために、市内の不動産価格が高騰しないようにする。
- ・春日市は治安が良いというイメージがあるが、地域での見守り活動を今後も継続し、犯罪発生率等数字の上でも安全安心なまちを維持していく。
- ・若い世代の結婚を支援するため、家族も巻き込んだ婚活の場を提供する。
- ・進学や就職などで一度春日市を離れた人が、再び春日市に戻ってくるような施策を

行う。

3班 塚本あけみ、進乙弘、藤石秀昭、小川全也

- ・良好な教育環境という春日市の強みをさらに高めていく。
- ・結婚や子育てを支援するまちづくりを進めていく。
- ・保育園の充実など、女性が働きやすい環境の整備を行う。
- ・春日市は福岡市のベッドタウンなので、福岡市との連携を強化していくべき。
- ・外国人の住民も増えてきているため、異なる言語や文化の人にも配慮した住民サービスを行う。
- ・更なる人口増加のためには、コミュニティバスの整備等更なる交通の便の向上が必要である。
- ・創業インキュベートタウン事業を推進して、春日市に住みながら起業する人が増えればよい。

7 市長所感

長時間に渡り熱心に議論いただきありがとうございました。

今回は「人口減少社会」という、全国の市町村が直面する問題がテーマでした。この人口問題を考える上で難しいことは、人口減少を防ぐということが、他の自治体との競争になってしまっているのかということです。幸い福岡都市圏に位置する春日市は現在も人口が増え続けておりますが、福岡県内でも山間部の自治体は過疎化に頭を悩ませております。「地方創生」というのは、それを実現できる自治体はよいのですが、地域の特性によりそれが困難な自治体もあります。そういった状況の中で、自治体独自の取り組みだけで地域ごとに競わせるといった「地方創生」には限界があると考えます。日本という国全体をとらえて、人口問題に取り組んでいく必要があるのです。

さて、春日市におきましては現在も人口が増加し続けていると申し上げましたが、それは春日市の外にいらっしゃる方々が春日市の良さを知っているということでもあります。最も大きな特色であります「協働のまちづくり」は、自治会と行政が対等な立場で地域の課題に取り組むという、先駆的なまちづくりであります。さらに、学校と地域そして家庭が連携して地域全体で子供を育てるコミュニティ・スクールは、県外の子育て世代の方々からも注目されております。他の市町村でこのような取り組みをしているという話は聞いたことがありません。「なぜ春日市はそんなことができるのか」と驚かれる

ことがしばしばありますが、この「協働のまちづくり」こそが、春日市に人々を惹きつける要因だと考えております。

また、社会保障費の抑制につきましては、高齢者の健康寿命を延ばすため健康づくり事業に力をいれております。市報等でこういった事業の記事を確認していただき、是非ご参加ください。

今後春日市におきましても高齢化は避けて通ることのできない現実ではありますが、元気で活力のある高齢社会を目指して参りたいと思います。春日市の良さを市民一人一人が理解して、みんなでもっとよくしていこうと思っていただけるよう、我々も努力します。本日皆さんからいただいたご意見を大切に受け止め、今後も「協働のまちづくり」を推進して参りたいと思います。

8 閉会

5. かすが市民懇話会 13 期・14 期会員名簿

かすが市民懇話会 13 期会員名簿

(任期：平成 28 年 7 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日)

名前	備考
いしざき なつき 石崎 菜月	市民公募会員
いとう えつみ 伊藤 悦美	市民公募会員
おおた ゆい 大田 優初	市民公募会員
しき みえ 志岐 美枝	市民公募会員
そえだ たかひろ 添田 孝浩	市民公募会員
そごう はるみ 十河 春美	市民公募会員
だいとう くにお 大東 九二生	市民公募会員
ながた とよき 長田 豊喜	市民公募会員
ふじた あゆみ 藤田 歩実	市民公募会員 平成 29 年度副会長
やまうち りお 山内 理央	市民公募会員

かすが市民懇話会 第 13 期会員名簿

(任期：平成 28 年 7 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日)

名前	備考
こじま ひさひで 小嶋 久英	団体推薦会員 筑紫農業協同組合 平成 29 年度会長
しもかわ ともこ 下川 智子	団体推薦会員 春日市文化協会
ふじいし ひであき 藤石 秀昭	団体推薦会員 春日まちづくり支援センター・ぶどう の庭
まつお しろう 松尾 志郎	団体推薦会員 春日市身体障害者福祉協会
いななが まさのり 稲永 正則	団体推薦会員 春日市商工会
はやの まさか 早野 雅佳	団体推薦会員 春日市社会福祉協議会
りゅう みやこ 龍 都矢子	団体推薦会員 春日市子ども会育成会連絡協議会
まつお みつひろ 松尾 光弘	団体推薦会員 春日市体育協会
かねこ あきお 金子 明生	団体推薦会員 春日市小中学校 PTA 連絡協議会
おがわ たけなり 小川 全也	団体推薦会員 春日市シニアクラブ連合会

かすが市民懇話会 第 14 期会員名簿

(任期：平成 29 年 7 月 1 日～平成 31 年 6 月 30 日)

名前	備考
おにつか 鬼塚 ふうみこ 文子	市民公募会員
かわの 川野 やすひろ 康廣	市民公募会員 平成 29 年度副会長
しん 進 いつひろ 乙弘	市民公募会員
つかもと 塚本 あけみ	市民公募会員
なかの 中野 まさつね 正 常	市民公募会員
にしその 西園 ひでとし 英俊	市民公募会員
はらだ 原田 み さ こ 美佐子	市民公募会員 平成 29 年度副会長
ひらの 平野 てつろう 哲 朗	市民公募会員
まつおか 松岡 しょういち 正 一	市民公募会員
やました 山下 しょうこ 憧子	市民公募会員

6. かすが市民懇話会要綱

(平成 16 年 5 月 6 日告示第 74 号)

改正 平成 20 年 3 月 31 日告示第 32 号

平成 27 年 3 月 26 日告示第 56 号

平成 28 年 3 月 31 日告示第 77 号

(設置)

第 1 条 行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会(以下「懇話会」という。)を設置する。

(活動)

第 2 条 懇話会は、次に掲げる活動を行うものとする。

- (1) 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言
 - (2) 市政の運営に関する調査及び研究
 - (3) その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動
- 2 市長は、前項の活動によって提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努めるものとする。

(会員)

第 3 条 懇話会の会員(以下「会員」という。)は、40 人以内とする。

2 会員は、市内に居住し、通勤し、又は通学する 18 歳以上の者であって、市政に関心と熱意のあるもののうちから、次に掲げる区分により市長が依頼する。

- (1) 市内の公共的団体等が推薦する者
 - (2) 公募による者
- 3 会員の依頼期間は、2 年間とする。ただし、2 年間に限り依頼期間を延長することができる。
- 4 会員は、特別職職員としての身分を有しないものとする。

(会長及び副会長)

第 4 条 懇話会に会長及び副会長を置き、会員の互選により定める。

- 2 会長は、懇話会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(部会)

第5条 懇話会には、必要に応じて部会を設けることができる。

(庶務)

第6条 懇話会の庶務は、経営企画部秘書広報課において行う。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公布の日から施行する。

(平成16年度における会員数の特例)

2 平成16年度における会員数については、第3条第1項及び第2項の規定にかかわらず、同条第1項中「40人」とあるのは「20人」とし、同条第2項各号中「20人」とあるのは「10人」とする。

附 則(平成20年3月31日告示第32号)

この告示は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月26日告示第56号)

この告示は、公布の日から施行する。

附 則(平成28年3月31日告示第77号)

この告示は、平成28年4月1日から施行する。

